

## センター試験 出題傾向

20日に行われた大学入試センター試験の理科と数学について、各予備校が出題傾向や難易度を分析した。

### 数学

【数学Ⅰ・A】大問数は必答問題と選択問題からの計4問で出題形式は例年通り。難易度は昨年並み。第1問は標準的な内容で解きやすい。第2問のデータの分析では変換したデータの計算と細かいグラフの読み取りが必要で、昨年よりも分量が増えている。第3問の確率は複雑な問題設

定を整理して把握することが重要である。第4問の整数は序盤の誘導に気づけるかがポイント。

【数学Ⅱ・B】出題形式は例年同様、必答2題と選択2題の計4題。難易度は昨年並み。第1問の三角関数と指数対数関数は標準的な計算問題で基礎学力が試された。第2問の微分積分は煩雑な文字計算が必要だが、見通しの立ちやすい設定である。第3問の数列では漸化式を解くための誘導の使い方が難しく、普段の練習量の差が現れやすい。第4問では3年ぶりに空間ベクトルが出題された。(京進)